

ペース・シーズ  
平和や命の大切さをいろん  
な視点から捉え、広げていく  
「種」が「ペース・シーズ」  
です。世界中に笑顔の花をた  
くさん咲かせるため、中学、高  
校生の21人がテーマを考  
え、取材し、執筆しています。

ペース・シーズ  
音楽連盟が「ひろしま平和の歌」でできる  
「広島音楽学校現エリザベト音楽大」できる  
「広島放送交響楽団ができる  
「広島音楽連盟が追悼演奏会  
「広島学生音楽連盟がチャリティーコンサート  
「歌謡コンクールが相次ぐ  
「宇品凱旋館でピアノ演奏会  
「ムシカ」で第九鑑賞会

ことしも、あと少しで終わるとしています。師走の街角では、一年の締めくくりを感じさせるよう、音楽の演奏や歌の合唱が繰り返されています。原爆で廢墟となつた広島の街にも、音楽は流れています。「ムシカ」という店では、「第九伝説」が語り継がれます。店主の思いで一枚のレコードがかけられ、惨禍から立ち上がる人たちへ、メールを送りました。



ムシカで、ジュニアライターに实物のレコードを見せながら思ひを語る梁川さん(右)

(撮影・沖野加奈)



当時流された第九のレコードのカバー。端がすり切れても大切にされている

## 第九のレコード「生きる力」

音楽とヒロシマ。中国新聞ユニアライターは、未来に希望を持とうと歩み始めた人たちのことを取りました。

音楽連盟が「ペース・シーズ」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、中学、高校生の21人がテーマを考え、取材し、執筆しています。

ことしも、あと少しで終わるとしています。師走の街角では、一年の締めくくりを感じさせるよう、音楽の演奏や歌の合唱が繰り返されています。原爆で廢墟となつた広島の街にも、音楽は流れています。「ムシカ」という店では、「第九伝説」が語り継がれます。店主の思いで一枚のレコードがかけられ、惨禍から立ち上がる人たちへ、メールを送りました。

また広島流川教会で、今も譜を使つて、焼け跡で市民が練習し合唱し始めたそうです。男女が

一緒にになり、のびやかに歌声を披

露できることになったのは復興の

証でした。

音楽連盟が「ペース・シーズ」

です。世界中に笑顔の花をた

くさん咲かせるため、中学、高

校生の21人がテーマを考

え、取材し、執筆しています。

1946 大みそか 音楽茶房ムシカ

1946年の大みそか。広島駅近くの猿橋町にあった音楽茶房「ムシカ」で流された曲があります。ベートーベンが作曲した交響曲第9番、いわゆる「九」です。原爆から復興に向かう市民を勇気づけたと語り継がれるエピソードを、現在の店主、梁川忠孝さん(左)に聞きました。

店はその年の8月、父の義雄さんがオーブンしたばかりでした。「音楽を聴くと生きる力が湧いてくる」と信じ、蓄音機とレコードを手に入れ店を開きました。

12月になって「関西の闇市で売っています」と聞き、持ち帰りました。

店はその年の8月、父の義雄さんがオーブンしたばかりでした。「音楽を聴くと生きる力が湧いてくる」と信じ、蓄音機とレコードを手に入れ店を開きました。

12月になって「関西の闇市で売っています」と聞き、持ち帰りました。

店はその年の8月、父の義雄さんがオーブンしたばかりでした。「音楽を聴くと生きる力が湧いてくる」と信じ、蓄音機とレコードを手に入れ店を開きました。

店はその後、2回にわたって移転しましたが、ファンに後押しされて2000年に現在の広島市南区西蟹屋へ。ホル

ームを備えて昔を復元しました。02年には、第九伝説を残すと市民の手で「ようこ

ひのうた」という絵本を作られました。

梁川さんは「市民一人一人が音楽を聴きながら自分の人生を振り返り、そして

第九伝説を残すと市民の手で「ようこ

ひのうた」という絵本を作られました。

私たちも、当時流された第九の音源を聴きました。デジタル化の進む今と違

い、少し懐かしさを感じる音です。人を包み込むような不思議な音色を持ついました。第九の力強さが体に染み、被爆

地で再出発する市民を手助けしたこと

が、よく分かりました。

(高1音藤幸歩、中3風呂橋由里)

メサイアの曲の一つ「ハーレルヤ」のコーラスの楽譜。

1947年のクリスマスに使われた

メサイアの曲の一つ「ハーレルヤ」のコーラスの楽譜。

米国から届いた楽譜を持ち、平和への願いを語る向井さん。楽譜には通し番号が付いている

が分かりました。終戦から3ヶ月たつた11月13日の中

が分かりました。

が分かりました。